

平成 21 年度墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会
第 5 回合同分科会議事要旨

日 時： 平成 21 年 10 月 19 日（月） 午前 10 時 00 分～ 12 時 00 分

場 所： 122 会議室（区役所庁舎 12 階）

- 議事内容：
- 1 全体会...推進協議会長あいさつ、鈴木部長あいさつ
 - 2 資料の説明
 - 3 全体討議 （1）目標、宣言、方向性、現状と課題、
推進についての確認
 - 4 その他...事務連絡

【配布資料】

- 資料 1 すみだ子育て・子育て応援宣言
墨田区次世代育成支援後期行動計画（平成 22 年度～平成 26 年度）
中間のまとめ（案）
- 資料 2 児童・青年期自主分科会議事要旨（10 月 14 日分）
- 資料 3 参考資料「学校支援ネットワークの職場体験」

墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会 分科会委員名簿

氏 名	所 属	乳幼児期 分科会	児童・青年期 分科会
布施 英雄	共愛館理事長	*	*
澁谷 昌史	関東学院大学准教授	*	*
野原 健治	興望館館長		*
長田 朋久	横川さくら保育園長	*	
増田 理枝子	増田小児科医院長	*	
本多 義敬	両国幼稚園理事長	*	
服部 栄	雲柱社理事長		*
大串 紀代子	両国子育てひろば施設長	*	
鈴木 和美	主任児童委員	*	
山下 洋史	男女共同参画推進会議委員長	*	
雁部 隆治	小学校連合PTA会長		*
田村 亨	中学校PTA連合会		*
須貝 利喜夫	青少年委員		*
田口 武司	文花中地区青少年育成委員会		*
野城 東亜子	墨田区少年団体連合会		*
小菅 崇行	小菅株式会社代表取締役社長		*
西村 孝幸	小梅保育園代表	*	
田口 典子	公募委員	*	
小平 多津子	公募委員		*
上野 悦子	公募委員	*	
荒木 尚子	緑幼稚園長	*	
伊藤 隆雄	緑小学校長		*
松本 憲一	墨田中学校長		*
鈴木 陽子	子育て支援担当部長		
細川 保夫	福祉保健部長		
坂本 康治	教育委員会事務局次長		
麻場 富喜子	江東橋保育園長	*	

推進協議会長 推進協議副会長 分科会長
* 担当分科会

事務局

子育て計画課長 岩佐一郎
 児童・保育課長 関口芳正
 子育て支援総合センター館長 今泉峰子
 子育て計画課 染谷、有澤、佐藤

1 全体会…推進協議会長あいさつ、鈴木部長あいさつ

(会 長) 第5回合同分科会を始めます。次世代育成行動計画策定にあたり、皆様の熱心なご討議、ご協力をいただき、まとめの段階に達しました。今後は、ご討議いただきました内容を行動計画全般の中に落とし込む作業をしていきます。今日は、組み立てが終了している部分についてご説明させていただき討議をします。現段階では、具体的な施策は載っていませんが、これについてはできるだけ数値化した目標を打ち出せるよう、ご尽力いただいているところですので、次回の推進協議会でお示しさせていただきます。今日はその他の部分についてご検討をよろしくお願いいたします。

(事務局) 事務局より鈴木部長のあいさつがあります。

(子育て支援担当部長)

お集まりいただきましてありがとうございます。これまで委員の皆様には昼夜を問わず熱心にご議論いただき、改めてお礼を申し上げます。おかげさまで本日、後期行動計画の考え方を示すことができました。会長からもお話があったように、具体的な施策については、もう少しお時間をいただき、できるだけ早急に皆様に配布させていただきます。そして11月2日の推進協議会の中でご決定をいただき、議会へ報告をし、その後区民の方にパブリックコメントを求めていきたいと思っております。また速報として、先日この席でお話させていただきました「子育て応援特別手当」ですが、新政権に変わり執行停止が決定されました。墨田区でも9月末の議会で決定し、10月1日からDV被害者への対応の事務手続きが始まったところでした。しかし、幸い申請は受け付けていませんでした。国のほうから詳細が入りましたら、皆様にも情報提供させていただきたいと思っております。それでは、行動計画のご審議をよろしくお願いいたします。

2 資料の説明

(会 長) では、お手元の資料について、前期と共通する部分の第1章から第3章、第4章、第5章の3つにわけ、事務局から説明をお願いします。

- 資料説明 -

3 全体討議

(会 長) 第1章から第3章までは、前期と基本的な組み立ては共通していますが、皆様の討議を踏まえて、新しく組み立て直した部分、補った部分、並べ替えた部分などがあります。今までのところでご意見をいただきたいと思っております。

(委 員) 28ページの施策の体系、将来像の子育て家庭「安心して子どもを生み、・・・」の部分は、何か深い意味があって「産み」ではなく、「生み」を使っているのですか。

(会 長) このほうが、意味合いが広くなり良いと思っております。24ページの平成26年に達成すべき新たな目標の部分は、数値化するとこのようになります。特に地域についての指標は、いかがでしょうか。

(副会長) 48ページには「調査結果によると、墨田区には子育てを協力・支えあう地域のつながりがあると評価しているのは、乳幼児の保護者の3割台、小学生の保護者の約4割でした」とあり、この数値は評価指標になる気がします。ファミリーサポートが充実するのは良い方向性だと思っておりますが、ここだけ唐突に事業名があがってくるので、統一したほうが良いと思っております。

(会 長) 調査に基づく数値を使って、他の評価指標と同じように何ポイントアップという形に

したほうがふさわしいですね。この点は次に向けてご検討ください。

(事務局) はい、わかりました。

(委員) 27ページの宣言の2行目、「子ども連れの人」は単純に「保護者」でも良いのではないのでしょうか。また、3ページと10ページなどの印の説明文は本文と区別するために、文字のポイントを小さくし統一た方が良いと思います。

(分科会長) 19ページの墨田区の子ども人口の将来予測の、「およそ33,000人になると予測されます」という理由ですが、「今後もマンション建設等により」だけでは5年間の計画の成果が組み込まれていません。様々な施策の成果があったことを掲げたほうが良いと思います。

(委員) 計画の実行を前に、マンション建設等を後にしたほうが良いと思います。

(分科会長) 23ページの基本理念について提案です。「親やこれから親となる人たちが子育てに喜びと自信をもてるよう支援していくことが重要です」の部分で、子育てに対して自信をもつということは難しいことです。自信というよりも、「喜びと安心がもてるように支援していく」としたほうが良い気がします。

(委員) 24ページの子育て家庭の評価指標に「子育てに不安や孤独感を感じることは「ない」保護者の割合」とありますが、子育てに不安や孤独を感じない保護者はいないと思います。どのようにくりなのでしょうか。

(子育て支援担当部長)

ニーズ調査のこの部分の設問は、「家族や周囲の理解・協力が得られなくて孤独を感じることがありますか」となっています。だから「ない」という割合が多かったのだと思います。この部分は、もう少し丁寧に説明を書いています。

(分科会長) 24ページの上の部分、「近年の人口動態等の状況や行動計画の実施などにより」のところも、人口動態等の状況や行動計画の実施では簡単すぎる気がします。先ほどのように、もう少し膨らませたほうが良いのではないのでしょうか。

(会長) 33,000人という目標は、もうクリアしているという気持ちが強いので、その原因や理由の部分をもっと細かく説明することはせずにこのままで良いと思います。どこか1か所できちんと捉えられていれば良いのではないのでしょうか。

(会長) それでは第4章に進めます。説明をお願いします。

- 資料説明 -

(会長) この部分は我々が意見を申し上げたことを、適切に組み立て、整理をして入れ込んでいただきました。今後の方向性はまだ抽象的で、こういう方向に進めますとか、めざしますという表現になっていますが、今後これに見合う具体的なサービスが入れ込まれていくこととなります。11月の推進協議会で発表していただきます。落ちているようなところはありませんか。

(委員) 母子手帳の名前を変更することは難しいという議論の際に、情報提供のために、何か別の冊子をつくるといったことが必要だという意見が、両方の分科会から出ていたと思います。

(会長) 細かい事業については、まだ各課との照らし合わせが終わっていないこともあります。

(事務局) 55ページの方向性(4)の中に、取り込んだ形で書いているつもりです。この中の事業として、現在ヒアリング等を実施し、調整しています。

- (委員) 48ページの今後の方向性の1つ目に「町会」という言葉を入れたほうが良いと思います。地域の子育ての力の育成と協働「保育園・幼稚園等の保育施設、児童館、学校等」の「等」に含まれているのかもしれませんが、少し雰囲気が違うので、あえて「町会」という言葉は入れたほうが良いと思います。
- (会長) 引き出すためにも、そこまで踏み込んだほうが良いでしょう。
- (委員) 34ページの学童クラブについてですが、学童クラブをどこに整備するかという議論の際に、学校の中につくる場合はせめてプレハブをつくってほしいという意見が多かったように思います。ここには学校の余裕教室と書いてありますが、どうなのでしょう。
- (会長) それが確実にできる見込みがあれば、ここに掲げても良いのですが、そこは不明確でもあるので、この部分は「等」となっているのだと思います。
- (委員) 41ページの方向性の3つ目「公立・私立保育園」の中に認証保育所も入れてください。保育所という表現にすれば、全部を網羅できるのではないかと考えます。
- (会長) 保育園というと、いわゆる公立と私立の保育園としか考えませんから、「保育所」のほうが良いと思います。それでは最後の、第5章「計画の推進にむけて」に移ります。実際に方向性が打ち出され、事業が掲げられたとしても、それでこの5年間がすべてうまくいくとはかぎりません。具体的な事業を組み立てるにあたっては、行政にやっってくださいという形ではなく、様々な連携や協働によってこれを推進しなければならないことを、第5章で掲げています。それでは説明をお願いします。

- 資料説明 -

- (会長) これからの取り組みについての根拠になる部分です。私たちの任期も、あと1年あるので、今まで掲げられていることをお互いに結びつけ、イメージされていない部分をどのようなプログラムで展開していくのかを検討しなければなりません。第5章では、やり残している部分を洗い出して、具体的な取り組みにつなげることが大変重要であると掲げています。思い切った章の設定で、我々も大変期待しています。それでは皆さんのご意見ををお願いします。また、これまでの話の中で、次世代育成に関わっていることで、こういう取り組み方は可能かどうか、やってみたらどうかというようなことがあれば、あわせてをお願いします。
- (副会長) 自治体によっては、次世代育成支援行動計画が保育計画のようになっているところもある中墨田区では、子育てについての様々なメニューが形になりつつあると実感しています。すべてのメンバーの方のおかげであることはもちろんですが、企業のほうから様々な情報提供をしていただけたことも、非常に大きかったと思います。しかしこれで完結ではないということが大切で、これからまた個別の事業が出てくると、なぜこの部分は載っていないのだろうということが出てくると思います。外国人や経済的な困難をかかえた家庭も増え、ひとり親家庭でも非常に難しい家庭が多いという中、色々な課題のある子どもたちや家庭に対するサポートは今までは不十分で、海外でいうユースワーカーなどそうした家庭に手を差し伸べていく人材が必要であると考えています。その支援は区直営だとお金がかかるので、NPOの支援などを含めた既存の力のある団体に、事業を委託するようなことも考えなければいけないと思います。まず、足りない部分をきちんとやっていくために、推進分科会がぜひ必要である

と考えます。さらに10年先を見据えて、推進分科会はぜひ外さないで本文中に明記していただきたいと思います。

- (委員) 皆さんから良い提案をいただいているので、ぜひ計画に反映させ事業展開にもっていけると良いと思います。各関係部署との調整は難しい問題があると思いますが、事務局側のご努力と、私たちも一体となって推進協議会だからこそ発言ができることもあると思います。そこは手を携えてやっていきたいと思います。計画化された事業の多くは達成されるという現状もありますので、できるだけ計画に盛り込んで一気に進んでいけば良いと思います。
- (事務局) 今のお話を受けて事務局はこの間、担当課と個別のヒアリングを行うなど最大限努力してきています。しかし、行政計画ですのでどうしても最後には政策的な判断、財源の問題、公平性の問題、公益性の問題、執行対策など色々な問題を総合的に判断しなければならない部分があります。目標を具体的に設定できるものはなるべく設定するという方向で調整をしていますが、努力が及ばず「検討する」「努力をする」などの表現もあるかもしれません。それらについては、推進体制の中でチェックできるようなしくみを考えていくという部分もあります。次回、事業が具体的に出てきた時には、こうした点も踏まえてみてください。
- (会長) 庁内の様々な部課にわたっての取り組みをするためには、当然調整が必要だと思えます。もちろん全体的な区の方針や財政も絡んでくると思います。今回、区当局が大変ご努力された結果、内部のつながりや連携体制をつくる上での糸口は十分つかめたのではないかと思います。これは今までにない大きな成果であったと受け止めます。もちろん我々も意見をいうだけでなく、連携しながら努力していこうという思いも高まってきました。後期の策定にあたっては、前期と比べるとかなり大きな前進があり、それが行動計画の充実にもむけて多に役立つと感じています。
- (委員) 61ページの上から3行目「計画の点検・評価は、個別の事業の進ちょく状況のみならず、計画全体の評価として、平成26年度に達成すべき目標として掲げた「5年後の将来像」の実現状況についても評価を行い」とありますが、将来像の評価は5年後に行うのではなく、毎年どのぐらい効果があったかを検証していくと受け取って良いのですか。もしそうだとしたら、どのような方法で、「子ども」「子育て家庭」「地域(企業を含む)」にどの程度の効果があったかを検証していくのでしょうか。また、事務局として推進分科会のイメージがあれば教えていただきたいと思います。
- (事務局) 前期計画は、立てた事業についてどの程度実施できたかについて、毎年内部評価をしています。後期行動計画についても、目標値の実施状況は必ず確認をして集約します。その結果を推進協議会で、チェックしていただき、必要に応じて推進分科会を設置し、対策を打っていくイメージです。将来像の評価については、毎年厳密に調査することは厳しいので、それは5年後にニーズ調査をするものと考えています。
- (委員) では、「個別の事業の進ちょく状況の評価を毎年行い、それによる効果の検証は5年後に実施する」というような表現にしたほうが良いと思います。推進分科会のイメージは何かありますか。
- (事務局) 毎年チェックしていく中で進ちょく状況をみて、重点的に取り組む事業やテーマをしぼり取り組んでいくことになると思います。現段階では、テーマ設定をしていません。

(委員) 児童・青年分科会で出ていたことですが、学校・教育委員会と福祉・保健関係部署のつながりがもっと強くならなければいけないと思います。いじめや家庭の問題は地域だけで解決することは難しく、学校との連携が重要になってくると思います。教育と福祉が連携していくという宣言を盛り込むことはできないでしょうか。また、この次世代育成支援行動計画は国からおりてきたものですが、今に至っては区の大きな政策であり、区民の期待するところです。次世代育成支援対策推進法は10年間の時限立法ですが、この計画には法律にとらわれず継続的に取り組んでいくという宣言も盛り込んでいただきたいと思います。もう一つは、子育て予算が全予算の何パーセントを占めているのかを、委員は知っておくべきだと思います。もし次回に教えていただくことができるのなら、お願いしたいと思います。

(会長) 国も予算のカットはおこなっています。その中で難しい問題もあると思いますが、そのあたりの指標もあって良いかもしれません。ご検討いただければと思います。

(委員) 前期、後期をとおして計画に関わってきていますが、一つひとつの計画はとても良いものです。しかし計画を推進していく上で、どこがまとめて連携をとるのか、区がやるのか、推進協議会が続けてやるのか、他に方法があるのか等のまとめるポイントが必要だと思います。

(会長) 基本的には子育て計画課が行うことになると思います。

(子育て支援担当部長)

区の行政計画全般にいえることですが、行政がやること、地域がやること、企業がやることの役割分担をしていかないと、行政だけではやりきれない状況にあります。財政的な問題もありますし、区民のニーズが非常に高く、高度になっているためです。その中で今企業がどの程度やっているのか、地域にどの程度ご協力がいただけるのか、という部分をコーディネートし、どれくらい進んでいるかを調査することを子育て支援担当でやっていくということです。

(会長) 住民の動きや企業の動きを把握しながら、まとめていくということですね。

(子育て支援担当部長)

まず、知るということ、そしてそれを区民の方にお知らせするということが一番大事なことだと考えています。

(委員) 事務局がヒアリングをしてきているということですが、具体的な内容の情報提供をいただきたいと思います。

(会長) それは、問題の取り組みに対して交渉が始まったばかりなので、情報提供することが難しい部分もあるということをご了解いただきたいと思います。

(分科会長) 分科会長を引き受けて感じたことですが、ガバナンスを考えるにあたり、新しい公ということを実感しています。委員の方々には、具体的なご提案をいただきました。個人的には第4章の施策の展開の1番目に保育ではなく、「子どもたちをたくましくこころ豊かに育てます」という視点をもってきたことは大変すばらしいと思います。これからは、乳幼児に関する問題については、地域との連携によりもっとまとまってくると思います。しかし児童の問題については、学校との絡みや関わる機関の複雑さや守秘義務の問題があります。やらなくてはいけない課題に一步踏み込むためにも、協働プロジェクトのイメージを具体的にしていけたら良いと思います。児童の居場所、

障害をもっている子どもたち、国際家族のかかえている問題について考えるなど、協働について考える勉強会を開催していきたいと思います。また、施設が拠点となっている中、施設と施設との間にどのような協働の施策があるのかを、一度話し合いたいと思います。要保護児童については、子育て支援総合センターをみんなでどう支えていくか、ケースを解決するためには、専門家だけではなく、地域住民の参加、一般の人々がどう関われるかというレベルにきていると考えます。

4 その他...事務連絡

(事務局) 今後の予定は、11月2日(月)第2回推進協議会を開催します。

(会長) それでは、これで閉会いたします。